

第一節 会話が弾む家庭を

一生の間には、健康を損ねたり、仕事に行き詰まったり、対人関係に悩んだりすることもあるものです。想像もしなかった自然災害に見舞われることもあるかもしれません。しかし、家族と共に、あるいは家族の存在を支えに乗り越えて、迎えた人生の終日に「これが自分の人生」と思えたなら、悔いのない人生を歩み抜いたといえるでしょう。

それには、何を心に留めて生きればよいのか、神はこれのようにお教えくださいます。

神 示

「悔いなき人生」歩み抜くため

信者は 家庭に神の教え「真理」を生かす心がほしい

——人間の正体は魂——

魂が身体に宿された時^時 人は真実「生きる」喜びを体験できる

なれど 「真理」が見えぬまま 知識を頼りに生きる者^{人々}が多く

心重ならず 不平 不満の多い人生を歩んでいる

今なすべきことは一つ 和のある家庭を築くため 家族で「教え」に触れる

「教え」に生きる家^家は

必ず会話が弾み 健康を味わい 生きがい多い人生を歩んでゆける

「家庭」——魂安らぐ環境と気付いて 家族一人一人が教えに生きるべし

神示の冒頭、神はまず『「悔いなき人生」歩み抜くため、信者は、家庭に神の教え『真理』を生かす心がほしい』とご指導くださいました。つまり、人生を悔いなく歩み抜いていけるように、家族で神の教えを共有するということです。それには、神が「心」に「努力」と添えられているように、努力も必要です。

現代社会は流れが早く、どの分野を見ても不安要素が渦巻き、自然界でも大きな変動が続いています。そうした不安定な状態の中、政治も、経済も先が見えず、大多数の人々が最新情報を得ることに躍起になっているといっても、過言ではありません。

確たる根拠もないまま、見聞きした情報、知識を偏重する結果、正しい判断ができず、皆迷っています。こうした世相の影響を受けているのでしょうか。先行きを案じて、子供に学歴をつけさせたり、資格を取得させたり、家や土地などの財産を残したりすることで安心を得ようとする人も少なくありません。

しかし、人にとって最も大切なのは、形ある物やお金でも、専門知識や学歴、あるいは経歴や肩書でもなく、魂が安らぐ家庭です。そのような家庭となるように、自らが家の中